

令和元年度 自己点検・自己評価調査及び学校関係者評価結果

I 目的

富良野看護専門学校の理念・教育目的・目標に照らし、自らの教育活動を通して評価し、教育水準の維持・向上及び創意工夫のある教育の追求を図ることを目的とする。

II 対象

1 自己点検・自己評価

- 1) 評価対象：教務課 11 名、事務課 2 名の計 13 名
- 2) 調査票配布数 13 部、回収 11 部、有効回答 11 部
- 3) 調査時期：令和 2 年 1 月 6 日～17 日
- 4) 調査内容：調査票は別紙 1 のとおり。自記式無記名とし、「1 当てはまらない」と評価した場合、その理由について記述することとした。調査は 9 領域カテゴリー、下位目標 42 項目、小項目（評価基準）123 項目からなる自己点検・自己評価調査票を用いて実施した（この調査票項目のうち、本校の現状にそぐわないとし『Ⅷ 地域社会／国際交流』のうち 2 項目を削除した調査票とした）。
- 5) 結果分析：3 段階の評価尺度を点数化し「3 よく当てはまる」を 3 点、「2 だいたい当てはまる」を 2 点、「1 当てはまらない」1 点とし、9 領域カテゴリー、下位目標、小項目（評価基準）の平均点を算出した。

2 学校関係者評価

学校関係者評価実施要綱にもとづき、3 名の委員を委嘱した。3 月 19 日に委員会を予定していたが、コロナウィルス感染症拡大防止対策から中止とし、委員個々から文章での評価とした。

III 結果

9 領域別の結果・分析、学校評価委員からの評価は、別紙 2、資料 1・2 のとおりである。

IV 課題改善に向けて

自己点検・自己評価調査の分析結果、各領域毎に課題が明らかになった。さらに学校関係者評価を参考に、課題の改善に向けて目標化し取り組むこととする。

- 1 現行カリキュラムの評価により効果的な企画・運営を図り、学修環境・教育の質向上に取り組む。
 - 1) カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー（卒業認定要件、卒業時の能力）を明示して一貫性、整合性を検討する
 - 2) 豊富な資源を活用し地域に根ざした教育活動を目指す。
 - 3) 現行カリキュラム評価、新カリキュラム編成は全員の共通理解、認識での検討を目指す。
- 2 臨床実習施設の綿密な打合せと指導者との協働・連携体制の充実を図る
 - 1) 臨地実習施設、指導者との円滑な実習運営・効果的な学生指導をめざす。
- 3 「教員教育ラダー」を活用し自己教育力を高められる人材育成、支援体制の充実に取り組む。
 - 1) 組織力を高め、学習環境、働きやすい環境を整え、看護教育の質向上を目指す。
- 4 本校を目指す優秀な受験生の確保に向けて広報活動に取り組む
- 5 富良野圏域の保健・医療・福祉の充実を目指し就業者増加に取り組む。
- 6 卒業後の活動状況を卒業生及び就業先と連携を図り、カリキュラム評価・編成への反映に取り組む。

自己点検・自己評価調査表

評価基準：「3 良く当てはまる」「2 だいたい当てはまる」「1 当てはまらない」

別紙 1

カテゴリ	下位項目	評価基準	評価	1とした理由
I 教育理念・教育目的	1 法的整合性と独自性	1-1 教育理念・教育目的は、自養成所の教育上の特徴を示している。	3・2・1	
		1-2 教育理念・教育目的は、法との整合性がある。	3・2・1	
	2 教育理念・教育目的の意識と周知	2-1 教育理念・教育目的は、学生にとって学習の指針になるように具体的に示している。	3・2・1	
		2-2 教育理念・教育目的は、実際に学生の学習の指針になっている。	3・2・1	
	3 看護専門職についての考え方	3-1 教育理念・教育目的は、養成する看護師等の質を保障するために、どのような教育内容を設定しているかを述べている。	3・2・1	
		3-2 教育理念・教育目的は、養成する看護師等の質を保障するために、どのような教育方法をとるのかを述べている。	3・2・1	
3-3 教育理念・教育目的は、養成する看護師等の質を保障するために、どのような教育環境をとるのかを述べている。		3・2・1		
4 看護教育についての考え方	4-1 教育理念・教育目的は、看護、看護学教育、学生観について明示している。	3・2・1		
	4-2 看護、看護学教育、学生観は実際に教師の教育活動の指針となっている。	3・2・1		
5 学習・教育観と学生観	5-1 教育理念・教育目的は、養成する看護師等が卒業時点においてもつべき資質を明示している。	3・2・1		
6 教育理念・教育目的の評価	5-2 卒業時点にもつべき資質は、社会に対する看護の質を保障するのに妥当なものとなっている。	3・2・1		
II 教育目標	1 教育理念・目的との一貫性	1 教育目標は、教育理念・教育目的の一貫性がある。	3・2・1	
	2 目標内容の側面と到達レベル	2-1 教育目標は、設定した教育内容を網羅している。	3・2・1	
		2-2 教育目標は、最上位の目標として、教育活動のゴールが読みとれるものとなっている。	3・2・1	
	3 設定意図とその明確性、実現性	3-1 教育目標は、目標内容と到達レベルが対応している。	3・2・1	
		3-2 教育目標は、具体的で実現可能なものとなっている。	3・2・1	
4 教育目標の評価	4 看護実践者としての能力を育成する側面と、学習者としての成長を促すための側面から教育目標を設定している。	3・2・1		
5 継続教育との関連	5 卒業後の継続教育の考え方を示した上で、教育目標を設定している。	3・2・1		
III 教育課程経営	1 教育課程経営者の活動	1-1 教育課程編成者と教職員全体は、教育課程と授業実践、教育評価の関連性を明確に理解している。	3・2・1	
		1-2 教育課程編成者と教職員全体は、教育理念・教育目的の達成に向けて一貫した活動を行っている。	3・2・1	
	2 教育課程編成の考え方と具体的な構成	1-1 看護学の内容について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している。	3・2・1	
		1-2 学修の到達について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している。	3・2・1	
		1-3 学生の成長について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している。	3・2・1	
	3 教育内容の階層的関連性と配分の考え方	1-1 明確な考え方と根拠をもって科目を構成している。	3・2・1	
		1-2 明確な考え方と根拠をもって単元を構成している。	3・2・1	
		1-3 科目と単元の構成の考え方は教育理念・目的、教育目標と整合性がある。	3・2・1	
	4 科目・単元構成	2-1 構成した科目は、看護師を養成するのに妥当である。	3・2・1	
		2-2 構成した科目は、養成所の特徴をあらわしている。	3・2・1	
	5 教育計画 1) 単位履修の考え方	1-1 単位履修の方法とその制約について教師・学生の双方がわかるように明示している。	3・2・1	
		1-2 単位履修の方法は、学生の単位履修を支援するものとなっている。	3・2・1	
	2) 科目の配列	2 単位履修制の考え方を踏まえつつ、看護師等になるための学修の質を維持できるように、科目の配列をしている。	3・2・1	
		6 教育課程評価の体系 1) 単位認定の考え方	1-1 単位認定の基準は、看護師等に必要な学修を認めるものとして妥当である。	3・2・1
	1-2 単位認定の方法は、看護師等に必要な学修を認めるものとして妥当である。		3・2・1	
	2) 評価の体系	2 他の高等教育機関と単位互換が可能な体制を整えている。	3・2・1	
		3-1 教育課程を評価する体系を整えている。	3・2・1	
	3-2 評価結果の活用における倫理規定を明確にしている。	3-2 評価結果の活用における倫理規定を明確にしている。	3・2・1	
		7 教員の教育・研究活動の充実 1) 教員の専門性を高める体制	1-1 教員が専門性を発揮できるように、教員の担当科目と時間数を配分している。	3・2・1
	1-2 教員が授業準備のための時間がとれる体制を整えている。		3・2・1	
2) 教員の自己研鑽を保障するシステム	2-1 教育課程の実践者である教員が自ら成長できるよう、自己研鑽のシステムを整えている。	3・2・1		
	3) 教員の相互研鑽を保障するシステム	2-2 教員が相互に成長できるよう、相互研鑽のシステムを整えている。	3・2・1	
8 学生の看護実践体験の保障 1) 実習施設の選択と開拓 2) 実習目標達成のための実習施設との協力体制 3) 臨地実習指導者と教員の協働	1-1 臨地実習施設は、養成所の個別の教育理念・目的、教育目標を理解している。	3・2・1		
	1-2 臨地実習施設は、学生の看護実践の学習を支援する体制を整えている。	3・2・1		
	2-1 臨地実習指導における学生の学びを保障するために、臨地実習指導者の役割を明確にしている。	3・2・1		
2-2 臨地実習指導における学生の学びを保障するために、教員の役割を明確にしている。	2-2 臨地実習指導における学生の学びを保障するために、教員の役割を明確にしている。	3・2・1		
	2-3 臨地実習指導者と教員の協働体制を整えている。	3・2・1		
	4) 学生からケアを受ける対象者の権利の尊重	3-1 学生からケアを受ける対象者の権利を尊重するための考え方を明示している。	3・2・1	
3-2 対象者の権利を尊重する考え方に基づいて、学生への指導を計画的に行っている。		3・2・1		
5) 臨地実習における安全対策	4-1 臨地実習において学生が関係する事故を把握、分析している。	3・2・1		
	4-2 学生に対する安全教育、安全対策を計画的に行っている。	3・2・1		
IV 教授・学習・評価過程	1 授業内容と教育課程との一貫性	1 授業の内容は、教育課程との関係において、当該学生のための授業内容として設定されている。	3・2・1	
		2-1 授業内容のまとまりの考え方を明確に述べている。	3・2・1	
		2-2 授業内容のまとまりの考え方は、科目目標との整合性をもっている。	3・2・1	
	2 看護学としての妥当性	3 授業内容のまとまりは、看護学の教育内容として妥当性がある。	3・2・1	
	3 授業内容間の関連と発展	4 授業内容間の重複や整合性、発展性等が明確になっている。	3・2・1	
	4 授業の展開過程	1 授業形態（講義、演習、実験、実習）は、授業内容に応じて選択している。	3・2・1	
2 授業展開に用いる指導技術についての考え方を授業計画書に明示し、実践している。		3・2・1		
3 授業の展開過程の他に、学生の学習が深化、発展するための方法を意図的に選択し、学習を支援している。		3・2・1		
4 学生に効果的な教育・指導を行うために、教員間の協力体制を明確にしている。		3・2・1		
5 目標達成の評価とフィードバック 1) 評価の計画性 2) 評価結果の活用	1-1 評価計画を立案し、実施している。	3・2・1		
	1-2 評価結果に基づいて、実際に授業を改善している。	3・2・1		
	2-1 学生および教育活動を多面的に評価するために、多様な評価の方法を取り入れている。	2-1 学生および教育活動を多面的に評価するために、多様な評価の方法を取り入れている。	3・2・1	
		2-2 教育目標の達成状況を多面的に把握している。	3・2・1	
	3-1 学生に単位認定のための評価基準と方法を公表している。	3・2・1		
	3-2 単位認定の評価には公平性が保たれている。	3・2・1		
6 学習の動機づけと支援 1) シラバスの提示 2) 学習の支援体制	1-1 シラバスの提示や学習への指導は、養成所全体としての一貫性がある。	3・2・1		
	1-2 シラバスの提示や学習への指導は、学生の学習への動機づけと支援になっている。	3・2・1		

カテゴリ	下位項目	評価標準	評価	1とした理由	
V 経営・ 管理 過程	1 設置者の意思・指針	1-1 養成所の管理者は教育理念・教育目的についての考え方を明示している。	3・2・1		
		1-2 養成所の管理者は教育課程経営についての考え方を明示している。	3・2・1		
		1-3 養成所の管理者は教育評価についての考え方を明示している。	3・2・1		
		1-4 養成所の管理者は養成所の管理運営等についての考え方を明示している。	3・2・1		
		1-5 明示した管理者の考え方と、設置者の意思とは一貫性がある。	3・2・1		
	2 組織体制 1) 意思決定機関・意思決定システムの明確化	1-1 養成所の組織体制は、教育理念・目的を達成するための権限や役割機能が明確になっている。	3・2・1		
		1-2 意思決定システムが明確になっている。	3・2・1		
		1-3 意思決定システムは、組織構成員の意思を反映できるように整えられている。	3・2・1		
		1-4 意思決定システムは、決定事項が周知できるように整えられている。	3・2・1		
		2) 組織の構成と教職員の任用の考え方	2-1 組織の構成と教職員の任用の考え方と、教育理念・教育目的達成との整合性がある。	3・2・1	
			2-2 教職員の資質の向上についての考え方と対策には教育理念・教育目標達成との整合性がある。	3・2・1	
		3) 教職員の資質の向上についての考え方と対策	2-1 教職員の資質の向上についての考え方と対策には教育理念・教育目標達成との整合性がある。	3・2・1	
			3 財政基盤	1-1 財政基盤を確保することについての考え方が明確である。	3・2・1
	1-2 財政基盤を確保することについての考え方は、学習・教育の質の維持・向上につながっている。			3・2・1	
	2-1 教職員は、養成所がどのような財政基盤によって成り立っているか理解している。			3・2・1	
	2-2 教職員のそれぞれの観点からの財政についての意見は、学校経営に反映できるようにになっている。	3・2・1			
		4 施設設備の整備	1-1 学習・教育環境の整備について、管理者の考え方が示されている。	3・2・1	
	1) 整備の考え方と計画性	1-2 管理者の考え方に基づいて整備計画を立案して実施している。	3・2・1		
		2) 看護学の発展や医療・看護へのニーズ、学生層の変化に対応する整備	2-1 看護の専門職教育に必要な施設設備を計画的に整備している。	3・2・1	
			2-2 医療・看護の発展や学生層の変化に合わせて、施設設備を整備・改善している。	3・2・1	
		3) 学生および教職員のための福利厚生者の整備	3-1 養成所が設置されている地域環境との関連から学生及び教職員にとっての福利厚生者の施設設備の整備を検討している。	3・2・1	
	3-2 学生が学校生活が円滑に送り、教職員が職務を円滑に遂行できるように施設設備を整備している。		3・2・1		
	5 学生生活の支援	1) 学修継続への支援体制	1-1 学生が入学後に学修を継続できる支援体制を多角的に整えている。	3・2・1	
			1-2 学生が活用しやすいように学生生活の支援体制を整えている。	3・2・1	
			1-3 支援体制は、実際に学生に活用され、学修の継続を助けている。	3・2・1	
		2) 学修困難への支援体制	1-1 教育・学習活動に関する情報提供を関係者（保護者等）に行っている。	3・2・1	
			1-2 関係者（保護者等）への情報提供は関係者から協力・支援を得ることにつながっている。	3・2・1	
			2-1 看護師等を養成する機関としての存在を、十分にアピールする広報活動を適切に行っている。	3・2・1	
		2) 広報活動	2-2 広報の内容は、社会的責任を果たすものになっている。	3・2・1	
			7 養成所の運営計画と将来構想	1-1 養成所は明確な将来構想のもとに運営の中・長期計画・年間計画を立案している。	3・2・1
		B 自己点検・自己評価体制	1-2 その実施・評価は、将来構想との整合性を持っている。	3・2・1	
			1-1 自己点検・自己評価の意味と目的を理解している。	3・2・1	
1-2 実際に自己点検・自己評価を行うための知識と方法を明確にもっている。	3・2・1				
2-1 自己点検・自己評価体制を整え、運用している。	3・2・1				
2-3 自己点検・自己評価は、養成所のカリキュラム運営、授業実践にフィードバックするように機能している。	3・2・1				
2-3 自己点検・自己評価体制は、養成所の教育理念・教育目的、教育目標の維持・改善につながるように機能している。	3・2・1				
VI 入学	1 入学者の選抜の考え方と教育理念・教育目的との整合性	1 教育理念・教育目的の一貫性をもって入学選抜についての考え方を述べている。	3・2・1		
		2 入学者状況・入学者の推移について、入学選抜方法の妥当性及び教育効果の視点から分析し、検証している。	3・2・1		
VII 卒業・ 就業・ 進学	1 進路選抜の状況と教育理念・教育目的との整合性 2 卒業時の看護実践能力および卒業後の活動状況の評価	1 卒業時の到達状況を捉える方法が明確であり、計画的に行っている。	3・2・1		
		2-1 卒業時の到達状況を分析している。	3・2・1		
		2-2 卒業生の就業・進学状況を分析している。	3・2・1		
		2-3 卒業生の到達状況、就業・進学状況についての分析結果は、教育理念・教育目標との整合性がある。	3・2・1		
		3-1 卒業生の就業先での評価を把握し、問題を明確にしている。	3・2・1		
		3-2 卒業生の就業先との情報交換や調査の実施等ができる体制を整えている。	3・2・1		
		4-1 卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理している。	3・2・1		
		4-2 卒業生の活動状況の分析結果を、教育理念・教育目的、教育目標、授業の展開に活用している。	3・2・1		
VIII 地域 交流 社会 / 国	1 地域社会と交流するための体制 1) 地域社会への貢献とニーズの把握 2) 地域社会における資源の活用	1-1 社会との連携に向けて、地域のニーズを把握している。	3・2・1		
		1-2 看護教育活動を通して地域社会への貢献を組織的にしている。	3・2・1		
		2-1 養成所の教育活動について、地域社会のニーズを把握する手段を持っている。	3・2・1		
		2-2 養成所から地域社会へ情報を発信する手段を持っている。	3・2・1		
		3-1 養成所が設置されている地域の特徴を把握している。	3・2・1		
		3-2 地域内における諸資源を養成所の学習・教育活動に取り入れている。	3・2・1		
	2 国際交流のための体制 1) 学生・教員の国際的視野を広げるためのシステム 2) 留学生の受け入れ等に関する対応	1 国際的視野を広げるための授業科目を設定している。	3・2・1		
		2 国際的視野を広げるための自己学習に適した環境を整えている。	3・2・1		
		3 海外からの帰国学生や留学生の受け入れ体制を整えている。	3・2・1		
		4 留学や海外において看護職に就く等を希望する学生に対応できる体制を整えている。	3・2・1		
IX 研究	1 教員の研究的姿勢の涵養 2 教員の研究活動の保障と評価 2) 研究活動の評価	1 教員の研究活動を保障（時間的、財政的、環境的）している。	3・2・1		
		2 教員の研究活動を助言・検討する体制を整えている。	3・2・1		
		3 研究に価値をおき、研究活動を教員相互で支援し合う文化的基盤が養成所内にある。	3・2・1		

調査結果	分析	学校関係者評価
<p>() 内は前年度</p> <p>『Ⅰ 教育理念・目的』 6項目 平均点 2.64 (2.44)</p> <p>高い項目は【1 法的整合性と独自性】2.73、であり、最低項目は【2 教育理念・教育目的の意義と周知】2.50であった。他の4項目は2.62～2.69と高い平均点であり、「だいたい当てはまる」以上であった。</p>	<p>入学時オリエンテーション、年度初めに教育理念・目的について説明している。さらに教育理念の「社会人基礎力」の獲得にむけて早期から意識できるようにしている。各学年において、中間・年度末評価を行い、学生自身が社会基礎力獲得を意識できるように支援している。頻りに周知することにより、教育理念を意識できるように指導により高い評価点であったと言える。</p>	<p>・「人間性」「社会人基礎力」は「看護実践能力」の上位に位地する看護の基礎力と考えますので、引き続き指導を徹底されるよう願います。</p> <p>・教育理念・教育目的の意義と周知のところのみ、平均点が2.50点で低いのが気になりました。評価基準では学習の指針についてですが、意識付けするための対策はどういったものがあるのでしょうか。</p> <p>・社会人基礎力については卒業後においても課題になっています。学生が意識できるように学内で指導して頂き、臨地実習で学内と違う、実際の社会に触れる場で、基礎力獲得に向けた関わりができればと思っています。</p>
<p>『Ⅱ 教育目標』 5項目 平均点 2.65 (2.50)</p> <p>9 カテゴリー中で最高得点であった。高い項目は【1 教育理念・目的との一貫性】2.69、【3 設定意図とその明確性、現実性】2.60、【4 教育目標の評価】2.69であり、次いで【5 継続教育との関連】2.62、【2 目標内容の側面と到達レベル】2.58であり「だいたい当てはまる」以上であった。</p>	<p>教育目標を元に学年別教育目標を示し、その到達状況を年度末にアンケート調査を実施している。同時に厚労省の示す「看護師教育の技術項目と卒業時の到達度」、「看護師に求められる実践能力と卒業時の到達目標」の調査結果等から教育目的、教育目標の整合性、妥当性を評価していることから平均点以上の高い評価であったと言える。しかし、教育目標を卒業生像とし、育てたい学生像と教育目標は一致ではない。今後、ディプロマポリシー（卒業認定要件、卒業時の能力）を明示して一貫性、整合性を検討する必要がある。</p>	<p>・目標にそっての教育が実施されていてもどう育つかは学生の個人差が出て難しい面があると思います。学生自身もディプロマポリシーについて考えて、自ら「卒業時になりたい学生像」に向かって学習していけるような教育が卒業後の継続教育にもつながってくると思います。</p>
<p>『Ⅲ 教育過程経営』 8項目 平均点 2.43 (2.29)</p> <p>昨年と比較すると0.14上昇したが、9領域では2番目に低い平均点であった。8項目すべて平均点以下であり、中でも【8 教員の教育・研究活動の充実】2.27と最低点であり、次いで【1 教育課程経営者の関連】2.35、【5 教育計画】2.38、【8 学生の看護実践体験の保障】2.42、【6 教育課程評価の体系】2.48であった。平均点以上が【3 教育内容の階層的関連性と配分】2.54、【2 教育課程編成の考え方】2.51、【4 科目・単元構成】2.50であり、「だいたい当てはまる」以上であった。昨年と同様の傾向であったが【8 教員の教育・研究活動の充実】2.00から2.27へ、【8 学生の看護実践体験の保障】2.18から2.42へと上昇した。</p>	<p>教育課程編成については、各領域担当と検討し企画し、前期・後期、年度末にカリキュラム評価の実施、教育理念・教育目的の達成に向けて一貫した教育活動となるように運営会議、教員会議等で審議しながら進めているが、【1 教育課程経営者の関連】【5 教育計画】の評価が低かった。教育課程経営は看護教育の基幹をなし、看護教育の質を左右する事項であることから改善が必要である。カリキュラムポリシーを明確に示し、カリキュラム編成に取り組む必要がある。</p> <p>学生の看護実践体験の保障にむけては、臨床指導会議年2回、各学年の領域別実習毎に、学生の理解、指導者の役割、指導体制と方法等の打合せにより進めているが、全項目の中でも評価が低かった。対象者の権利を尊重し、安全を確保した実習が行われるように学生自身の安全・安心を保障し実習できる環境整備が必要である。さらに臨床実習施設の綿密な打合せと指導者との協働・連携体制の充実が図れるようにする必要がある。</p> <p>専任教員は11名で全員が教員としての基礎的な教育は修了している。『Ⅸ 研究』と同様に【8 教員の教育・研究活動の充実】は例年低いが、評価点は上昇した。自ら成長できる自己研鑽システム、相互研鑽システムについては、専門分野の特定、年間計画によりセルフマネジメントにより自己教育力の向上を目指し、「看護教員ラダー」等の活用により人材育成、支援体制の充実をはかる必要がある。</p>	<p>・教員の教育研究活動の充実について相互研鑽システムを整えるとありますが現状は難しいと思います。全部とは言えませんが一つでも改善策ができればと思いました。それでも昨年度より上昇したことはすばらしいと思います。</p>

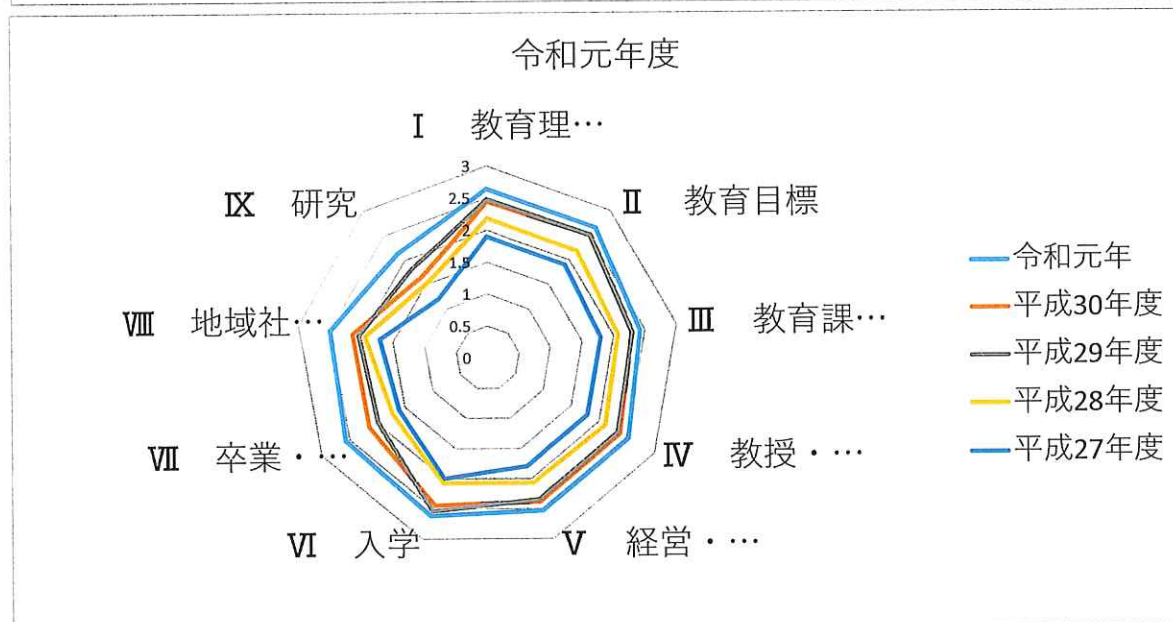
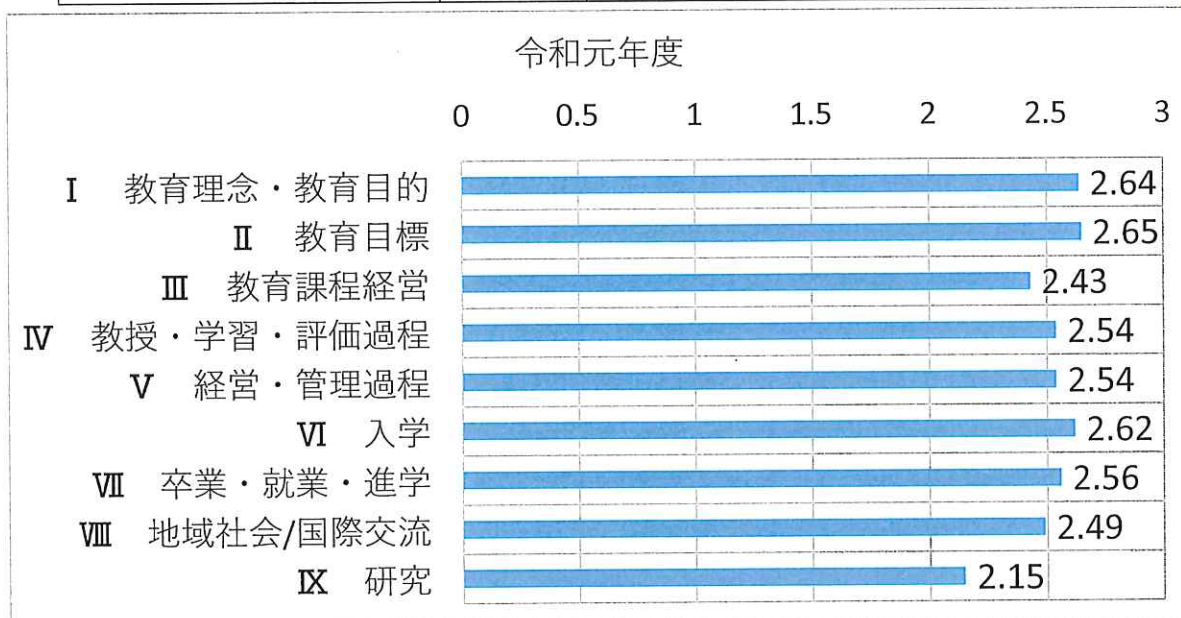
<p>『IV 教授・学習・評価過程』 6項目 平均点2.54(2.38)</p> <p>高い項目は【1 授業内容と教育実践との一貫性】2.64、【2 看護学生としての妥当性】2.62、【6 学習の動機づけと支援】2.62、【5 目標達成の評価とフィードバック】2.53、【4 授業の展開過程】2.48、【3 授業内容間の関連と発展】2.31の順であり、「だいたい当てはまる」以上であった。【3 授業内容間の関連と発展】は昨年の2.40から2.31へと下降し、【6 学習の動機づけと支援】は2.35から2.62へと大幅に上昇した。</p>	<p>授業方法ではアクティブラーニング、シミュレーション等導入し展開し、授業評価においても高評価を得ている。「授業内容間の関連と発展」は昨年より低下し、具体的な評価基準は「授業内容の重複や整合性、発展性を明確化している」であった。平成29年から教育内容のマトリックスを活用するとともに、現行カリキュラム評価、新カリキュラム編成時は共通理解、認識の基での検討が必要である。</p> <p>従来、教育計画とシラバスの2つを作成していた。学生への周知も徹底されないことやシラバスの活用が多いことから、次年度からはシラバスのみに変更する。</p>	<p>・授業内容間の関連と発展で教育計画とシラバスの2つを作成していたとのことでしたが、シラバスのみで充分だと思います。その方が集中しやすいと思います。来年度に期待します。</p>
<p>『V 経営・管理過程』 8項目 平均点2.54(2.39)</p> <p>高い項目は【1 設置者の意志・指針】2.65、【7 養成所の運営計画と将来展望】2.65、【4 施設設備の整備】2.60、【6 養成所に関する情報提供】2.58、【5 学生生活の支援】2.56、【3 財政基盤】2.50、【8 自己点検・自己評価】2.48、【2 組織体制】2.41の順であり、「だいたい当てはまる」以上であった。昨年と同様の傾向であったが、【3 財政基盤】は2.10から2.50へ、【4 施設設備の整備】2.27から2.60へと大幅に上昇した。</p>	<p>「設置者の意思・指針」「組織体制」「養成所の運営計画と将来展望」「財政基盤」「施設設備の整備」「学生生活の支援」「養成所に関する情報提供」「自己点検・自己評価」など本校組織としての中核項目である。</p> <p>「組織体制」では運営会議、職員会議、教員会議、入試委員会、単位認定会議等で協議、決定により意思決定システムを整えているが、低評価であった。</p> <p>学生生活の支援では、カンセリングを月1回2名枠で開始した。利用者は延べ11名であり、学生の心身の健康管理に効果的であった。次年度も継続し誰かに相談できる体制づくりを強化したい。</p> <p>築26年で迎え、経年劣化とともに長年の南側外壁から雨漏り対策としてようやく工事され修復されたこと、Wi-Fi整備を予算計上したこと等、施設設備の整備の評価が上昇したと言える。</p>	<p>・教育課程において、学生が教育を受けるに相応しい心身の状態にあることは大切な要件であるため、カウンセリング等における学生生活の支援は継続・強化すべきと考えます。また、PC及びスマートフォン等を活用して情報収集・学習に活用することはごく当たり前なこととなってきているため、Wi-Fi環境整備は適切だと思います。</p> <p>・学生生活の支援としてカウンセリングを実施しているとのことですが、その利用は自己申告制なのでしょうか。実習、再実習で学生に関わる時にメンタル面の健康管理が必要と思われる学生もいたのでは有効的な活用されればと思います。</p>
<p>『VI 入学』 2項目 平均点2.62(2.45)</p> <p>【1 入学者選抜の考え方】【2 入学者状況・入学者の推移の検証】ともに2.62と高い平均点であり、「だいたい当てはまる」以上であった。</p>	<p>入試委員会を中心に入試に関する公平性を維持し、入試問題の作成、入学試験の実施、入学者の選抜を実施している。ここ5年間の推移では64名から126名と受験生数に幅がある。さらに合格者・補欠者からの辞退者数も多く定数確保が困難な状況となっている。今年度はオープンキャンパス開催、学校訪問数の増加、広報活動により、受験生数が100名を越えたことが高評価であったと言える。</p> <p>今後、少子化による18歳進学者の減少、看護師志望者の減少等から定員30名確保は困難になることが予測されるが、富良野を目指す受験生の確保に向けて活動したい。</p>	<p>・少子化の影響を受けながらも、本年度の受験生が増えていることは、学校職員各位の努力と工夫の成果と思われ、敬意を表します。</p> <p>今後も定数確保は年々厳しくなることが予想されますが、現在の工夫と努力を継続頂くようお願いします。</p> <p>・学生確保に向けてがんばってください。学生達にも沢山協力してもらい自分達の看護への意識付けにもなると思っています。説明会があると親も安心します。</p> <p>・少子化の中で定数を確保することは容易ではないと思います。辞退者も多いとのこと、入学者の学力水準にも影響することと思います。受験生確保に向けての活動と平行して、辞退者、入学者から本校にもとめるもの、学生目線からの魅力というものをアンケート等で確認していくのはどうでしょうか。企業でもそうですが学生に選ばれる学校作りが必要になってくると思います。</p>
<p>『VII 卒業・就業・進学』 2項目 平均点2.56(2.14)</p> <p>昨年と比較すると0.42上昇した。【1 進路選択状況と教育理念・目標の整合性】は2.23から2.64へ、【2 卒</p>	<p>ここ5年間の卒業生137名のうち、富良野市内就職者は39名(28.5%)であり、臨地実習施設の就業者は47名(34.3%)であった。就職説明会開催、富良野市修学資</p>	<p>・卒業の学生及び就職先へのアフターフォローは、近年の社会及び学生の動向から重要項目であると考えます。学</p>

<p>業時の看護実践能力と卒業後活動】は2.05から2.48へと大幅に上昇し、「だいたい当てはまる」以上であった。</p>	<p>金の増額等が影響していると言える。</p> <p>平成30年度から卒業生の動向調査を実施している。就業先、地域等の卒業生の動向を明らかにするとともに看護実践力の卒業後、6か月後、1年後の推移に関する調査を実施していることから、大幅に評価が上昇したと言える。</p> <p>今後も教育理念、教育目的・教育目標との整合性について評価する必要がある。卒業生の活動状況を卒業3年までの追跡調査結果を評価し、さらに就業先との連携を促進し、本校のカリキュラム編成に反映する。</p>	<p>校での教育がしっかり就職先の実践で発揮され、かつ就職先から期待に応え長期に定着し専門性を醸成させるため、卒業後のモニタリングを実施し、必要な助言指導を就職先の教育担当者と連携して進めて行ける体制の維持、強化を願います。</p> <p>・市内就職者のうち、市内出身者市外出身者の割合はどうなっているのでしょうか。入学のカテゴリーと関係してきますが、学生が求める情報を適切な時期に提供することが学校側だけではなく就職先も必要だと思います。</p>
<p>『Ⅶ 地域社会／国際交流』2項目 平均点2.49(2.14) 平均点は昨年の2.14から2.49へ上昇し【1 地域社会と交流するための体制】2.62であり【2 国際交流のための体制】は1.50から2.12へと大幅に上昇し、「だいたい当てはまる」以上であった。</p>	<p>本校の体制として整っていない2項目を削除したことから評価は上昇した。地域活動は市内清掃等のボランティア活動、北海へそ祭りの参加、ことぶき大学との交流等を実施している。臨地実習では富良野市内及び圏域内の病院、施設等の協力を得て実施できている。さらに地域の豊富な資源を活用し、地域に根ざした教育活動を目指し必要がある。</p> <p>次世代を担う看護師育成に当たっては、国際的広い視野をもって医療に貢献できるとともに、地元地域の特色を活かした教育活動の開発が必要である。</p>	<p>・近年の北海道の国際的動向から病院における外国人の対応はレギュラーとなりつつあり、「交流」にと止まらずさらに積極的に、医療現場で求められる基礎的な語学習得のカリキュラムの導入について検討の必要が出てきていると思います。</p> <p>・当院では病院行事として夏祭りを実施していますが、就職予定の学生がスタッフ側で参加してくれることもありました。ボランティアとしても当院の雰囲気を感じてもらえる場にもなっているかと思っています。制約はあるかと思いますが、各病院、各施設の行事も参加することで地域と交流していく活動になるかと思っています。</p>
<p>『Ⅸ 研究』3項目 平均点2.15(1.63) 平均点は昨年の1.63から2.15へ上昇したが、9カテゴリで最下位であり、下位項目3項目のうち1項目が「2」以下の「当てはまらない」であった。平均点は【1 教員の研究活動を保障】2.31、【2 教員の研究活動を助言・検討体制】2.23【3 教員相互で支援し合う文化的素地】1.92であった。【3 教員相互で支援し合う文化的素地】は「当てはまらない」であった。</p>	<p>研究活動体制である学会・研修会参加の予算化し、全教職員が道内・道外の研修会等参加している。しかし、時間的な保障等の支援体制は整っていない現状にある。昨年よりは評価は上昇しているが、9カテゴリの中で最低であった。各専門領域の科目担当、担当時間数の公正性を保ち、各教員のセルフマネジメントにより、授業研究や教育活動に取り組める職場の素地づくりをする必要がある。同時に「教員教育のラダー」を活用し、自己教育力を高められる人材育成にも取り組む必要がある。</p>	<p>・教員相互で支援し合う文化的素地について、かなり評価は下がっているようですが外の研修参加は視野を広げるためにも大切だと思います。是非、検討を。</p>

学校関係者評価

- ・当院においても課題となっている点もあり、学内だけの問題ではなく学校と病院・施設（実習先・就職先）、さらに行政と連携していくことの必要性を感じました。
- ・現状に甘んじず、日々工夫と努力を重ね教育に取り組んできた結果が自己点検・自己評価調査結果から伺えます。富良野看護専門学校は医療人材確保の側面のみならず、地域に開かれた養成機関として福祉施設、地域イベントの参画を通じ富良野地域になくてはならないものになっていますので、地域に密着した看護師養成機関として今後も活躍されることを期待しています。
- ・全体的に評価できています。多忙ではありますが、何とか乗り越えていきたいですね。お互いがんばりましょう。

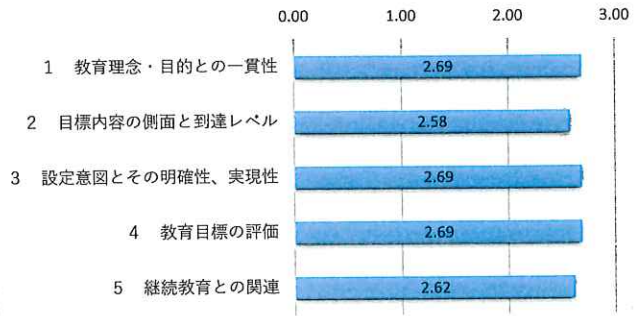
カテゴリ-	令和元年	平成30年度	平成29年度	平成28年度	平成27年度
I 教育理念・教育目的	2.64	2.44	2.48	2.18	1.90
II 教育目標	2.65	2.50	2.51	2.18	1.90
III 教育課程経営	2.43	2.29	2.30	2.07	1.80
IV 教授・学習・評価過程	2.54	2.38	2.34	2.12	1.80
V 経営・管理過程	2.54	2.39	2.35	2.08	1.80
VI 入学	2.62	2.45	2.54	2.08	2.00
VII 卒業・就業・進学	2.56	2.14	1.98	1.72	1.60
VIII 地域社会/国際交流	2.49	2.14	2.04	1.94	1.70
IX 研究	2.15	1.63	1.83	1.50	1.20
評定合計	22.62	20.36	20.37	17.87	15.70
評定平均	2.51	2.26	2.26	1.99	1.74



I 教育理念・教育目的



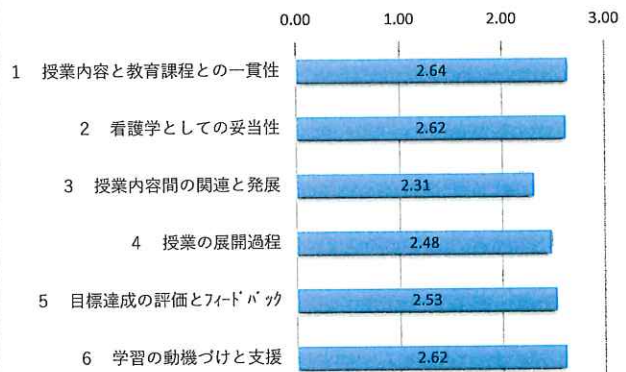
II 教育目標



III 教育課程運営



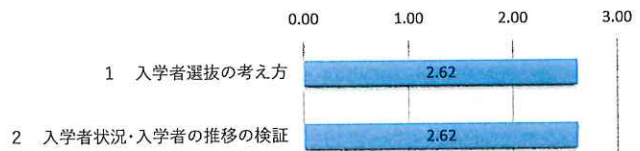
IV 教授・学習・評価過程



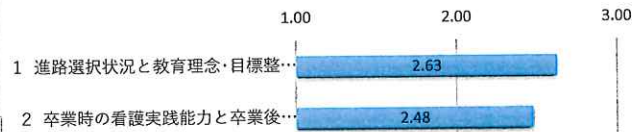
V 経営・管理過程



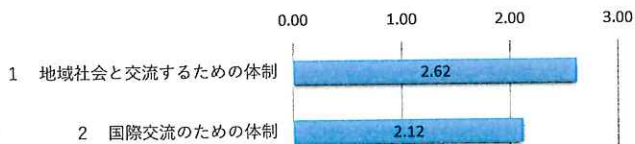
VI 入学



VII 卒業・就業・進学



VIII 地域社会/国際交流



IX 研究

